

良い文／悪い文(3)

第4回

次の文を修正しなさい

1. アップル社から販売されている、携帯型デジタル音楽プレイヤーであるiPodは、コンピュータに周辺機器を接続するためのUSB規格に対応した、USB大容量記憶装置としても利用できる。
2. 製品Aはほこりに強く、故障が少ない。(2通りの意味)
3. トラブルの原因には使用法に関するユーザの誤解があり、この誤解をなくすために、適切な情報をユーザに提供しなければならない。
4. 彼は論文執筆作業に入ると、その作業をほぼ全面的にワードプロセッサに依存し、ワードプロセッサなしには、執筆作業をすることができない。

解答例

1. アップル社が販売しているiPodは、携帯型デジタル音楽プレイヤーである。iPodは、USB大容量記憶装置としても利用できる。なぜならば、コンピュータに周辺機器を接続するためのUSB規格に対応しているからである。
2. 製品Aはほこりに強いため、故障が少ない。
製品Aはほこりに強く、かつ故障が少ない。
3. ユーザトラブルの原因には使用法の誤解がある。この誤解をなくすためには、適切な情報をユーザに提供しなければならない。

解答例

4. 彼は論文執筆作業をほぼ全面的にワードプロセッサに依存している。したがって、彼はワードプロセッサなしには、執筆作業をすることができない。

できましたか？

とにかく基本は、1 idea / 1 sentence

文章を分解し、同じ内容を何通りにも
言い換えることができれば、
英訳するときの候補となる文の
選択肢が広がり、よりいい英語がかけます。

1 idea/1 sentence

- 文章を分解し、同じ内容を何通りにも言い換えることができれば、英訳するときの候補となる文の選択肢が広がり、よりいい英語がかけます。
- もちろん、例外は沢山あります。
 - 1 idea / 1 sentence だけで文章を書くと単なる羅列になりがち。

適切な接続語が重要

文と文を適切につなぐと、文章に流れが生まれ
著者と読者の思考の流れを同じにできる。

文章の流れを作るのはあくまで各文の組み立て
や論理であり、接続詞ではない。使用は最小限に！

語の接続

- 並列（および、ならびに、かつ）
 - (both) A and B, A as well as B
 - A and B が主語のとき、動詞は複数形で呼応（ただし、bread and butter のように不加算名詞扱いの単語の場合は単数で呼応）
 - A as well as B が主語のとき、動詞はAに呼応（not only B but also A で置き換え可能）
- 選択（または、もしくは、あるいは）
 - (either) A or B
 - A or B が主語のとき、動詞は or の後にくるものに呼応（正確には、動詞に近い位置にあるもの）

パラリズムを守る

- 同じ種類（系統）のものを並列化する
 - 名詞と動詞を並べない
 - ×ここでは乗算したり、除算をしない
 - ○ここでは乗算したり、除算したりしない
 - ○ここでは乗算または除算をしない
- 形式が違うものを並べない
 - ×高速な演算や高価な冷却設備が不要
 - ○高速な演算装置や高価な冷却設備が不要
 - ○高速な演算機能や高価な冷却機能が不要
- 意味上おかしくなるものを並べない
 - 子供にパンと牛乳を飲ませて寝かせた

このスライド
の構造は？

記入上の注意

- 三つ以上 (A, B, C, D) のものを並べるとき
 - 日本語
 - A、B、C および D は、それぞれ～の一部である
 - A、B、C または D を使う
 - 英語
 - A, B, C, and D are the parts of ～, respectively.
 - We use A, B, C, or D. **(カンマの位置に注意)**
- and と or の両方
 - 日本語
 - A および B、もしくはそのどちらか、など. .
 - 英語
 - A and/or B

文、節、句の接続

- 追加 (さらに、また、そして、その上)
 - furthermore, moreover, in addition, additionally, besides, and (**and は文頭では使わない!**)
- 対照 (しかし、しかしながら、けれども、一方)
 - however, nevertheless, nonetheless, though, although, still, but, by contrast, on the other hand, while, whereas, meanwhile, in the mean time (**but は文頭では使わない!**)
- 比較 (同様に)
 - similarly, likewise, in the same way, also, equally (**also は文頭では使わない!**)

文、節、句の接続

- 理由 (なぜなら、その理由は)
 - because, since, for, the reason is (**because を文頭で使わない!**)
- 結果 (そのため、したがって、つまり、要するに、結論として、かくして、だから、それゆえ、その結果)
 - therefore, hence, thus, accordingly, thereby, consequently, as a result, due to, then, when, in fact, for this reason, so, eventually, in short (「**従って**」の意味で **so を文頭で使わない!**)
- 時 (同時に、次に、その前に)
 - at the same time, before, first, next, last

文、節、句の接続

- 例示 (例えば、つまり)
 - for example, for instance, That is (to say),
- 反復 (つまり、すなわち、言い換えれば)
 - That is (to say), namely, in short, in a word, eventually, i.e., after all,
- 話題の転換 (さて、ところで、一方、それにもかかわらず、しかし)
 - now, in the meantime, meanwhile, then, incidentally, on the other hand, in spite of, despite,

なぜ文頭が駄目？

- **and**
 - 「等位接続詞で、二つ以上の語、句、節を接続する」
(文とは書いてない) **Native もよく犯す間違い**
- **but**
 - 「前の語、句、節と意味上対立する語、句、節を導く」
(文とは書いてない)

なぜ文頭が駄目？

- **because**
 - 従属節を導く (I'm tired because I was busy.)
 - Because I was busy, I'm tired. は文法上正しい。しかし、because節の内容は聞き手にとって未知のもので、文の中で最も伝えたい部分となるが多いため文末におかれるのが普通。
 - 聞き手にとって既知の理由をのべ主節を強調したい場合には、sinceやasを使う。
 - Since it is a rainy day, I will stay at home.
 - Because だけの文は Why で始まる疑問文に答えるときだけ (論文にはそのような状況はない)

英英辞書を使おう

- 日本人がなかなか教わる機会がなく、日本語の辞書にも載っていない語感を知ることができるのは英英辞典のみ
- シソーラス (thesaurus : 類義語辞典) もあるといい

英英辞典における and の語法の説明文

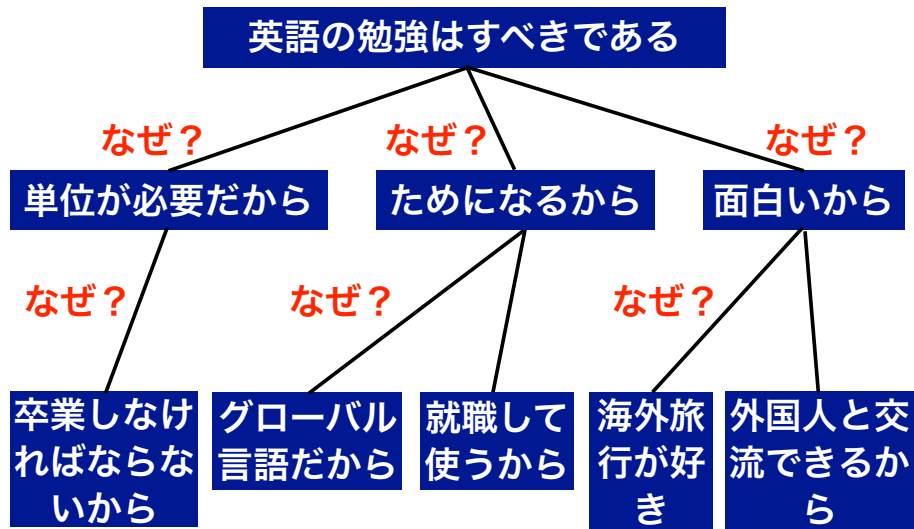
It is still widely taught and believed that conjunctions such as **and** (and also **but** and **because**) should not be used to start a sentence, the argument being that a sentence starting with **and** expresses an incomplete thought and is therefore incorrect.

文章編の前に

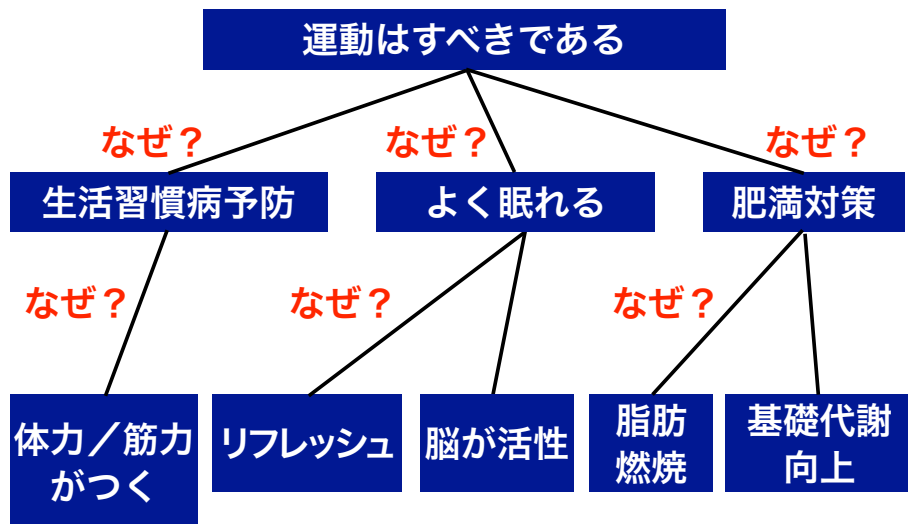
- 論文とは、疑問と回答である。
- よくある三段論法は論文ではよろしくない。
 - すべての人間はいつか死ぬ (大前提)。私は人間である (小前提)。ゆえに私はいつか死ぬ (結論)。
 - これは、逆茂木型の文章 (論点が最後にでてくる)
- 英語の考えでいくと、論文は以下のようにする。
 - 私はいつか死ぬ (論点)。【なぜ?】私は人間だからである (回答)。【なぜ?】すべての人間はいつか死ぬからである (回答)。
 - **論点 (結論) を先に述べ、それを後から立証していくピラミッド構造**

この考え方は文章編で重要になります

ピラミッド構造の例



ピラミッド構造の例



宿題（英訳せよ）

1. 光ファイバは、ガラスやプラスチックでできている光を伝達するための細くて透明な繊維である。
2. ファイバは透明なプラスチックもしくはガラスで作れるが、光減衰が小さいことから長距離通信用のファイバは常にガラスである。

- ・ 光ファイバ：optical fiber / 繊維：fiber
- ・ 光減衰：optical attenuation
- ・ 長距離通信：long-distance telecommunications
- ・ be made of / be made from の違いに注意せよ。

必要に応じて、重文／複文を修正してもよい。
基本となる主語と述語は何かを意識する。